王國建國法

第二

教育
4836
N

KODAK Color Control Patches
© Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres Inches

J
20707
教科書文庫
2
320
41-1875
200039
2566

教育学科
NK836
廣島大學圖書之印
佐島大學 教 20912 圖書

廣島大學圖書之印

王國建國法第二

白耳時建國法

千八百三十一年四月七日公布

國會宣布

第一章　地土及分劃

第一條

白耳時國、分テ數州トス、

即チアンウェルス、フラバン、フランドル、オクシタンタ、エノー、リエジュ、ランブール、リュキサンブ

佐野常民圖書之記

ル、「ナミル」是レナリ、但シ「ユキザンブー」ハ、又日耳曼同盟ノ中ニ在リ、「ユキザンブー」ハ、一州、丙藩、若更ニ分割シテ、州ヲ置クヿヲ要スル時ハ、其ノ權、法章ニ屬ス、君民共議ノ待フヲ云、

第二條

州内ノ分區ハ、法章ニ由ルニ非スンテ、設クルヿヲ得ズ、

第三條

國、及ヒ州邑ノ疆界ハ、法章ニ由ルニ非レバ、變改及復舊スルヿヲ得ズ皆行政權ノ專ニスル所ニアラズ、

第二章　伯耳時人、及伯耳時人權利

第四條

白耳時人タルノ身分ハ、之ヲ得、之ヲ保チ、及之ヲ失フヿ、民法ニ由テ定メタル規例ニ從フ、

白耳時人タル身分ノ外ニ、此ノ建國法、及它ノ政權即チ人民ノ公權ヲ指ス、ニ係リタル諸法章、政府ノ權ヲ云ニアラス、權ノ受用ノ爲ニ欠クベカラザル約束ヲ定ム、身ハ、私權ナリ、推選撰選ノ政權ト、二ツノ者、合セテ民權ヲ成ス、欠クベカラザル約束トハ、文字ヲ知リ、及自由ヲ失ハザルノ人、始メテ政權ヲ得ルノ類、

第五條

歸化ハ、外國人歸化シテ、白耳時人トナル、立法權ニ由リ、之ヲ許ス佛蘭西ニ於テハ、行政權ニ屬ス、政權ノ受用ニ於テ、外國人ヲシテ、白耳時人ニ合同セシムルヿ、獨リ大歸化ニ止マル、歸化法、大歸化アリ、小歸化アリ、民法ニ詳ナリ、小歸化ハ、以テ私權ヲ得ルモ、以テ公權ヲ得ルニ足ラズ、

第六條

國中、一ノ種族區別アルヿナシ、白耳時舊法、國民族、二、都族、三、部族、是三族ヲ分ツ一、貴ナリ、今、之ヲ廢ス、

凡ソ白耳時人ハ、法章ノ前ニ平等トス、唯、白耳時人タル者、唯白耳時人タルノ身分アルヲ要ス、它ニ求ルヿヲ假ラズ、文武ノ官

ニ任スルヿヲ得、但シ法章ニ特條ヲ定ムル者ハ、例ニアラズ、藏類人禁權人ノ類、

第七條

人身自由ハ、保固タリ、法章ニ掲クタル時機ニ於テシ、及法章ニ示ス所ノ規程ニ於テスルニ非レバ、何人モ、糾治ヲ受ルヿナシ、糾治ハ、人身自由ヲ制減ス、故ニ唯法章、其ノ時機ヲ定ム、蓋シ亦各規程アリ、現行犯ヲ除クノ外、因由ヲ注明シタル法官ノ令狀、何ノ因由ヲ以テ拿捕ヲ命スルヿヲ注明シタル令狀ヲ云、ニ拠ルニ非レバ、何人モ拿捕セラルヿナシ、其ノ令狀ハ、必ス拿

捕ノ即時、若クハ遅ク𪜈二十四時内ニ、之ヲ宣示スベシ、正本ヲ示シテ、罪名ヲ告ス、是レヲ宣示式トス、被告人宣示ヲ得ヲ、其ノ因由ヲ知ル、

第八條

何人モ、其ノ情願ニ非ズシテ、法章ノ付與スル所ノ法官ニ阻隔サルヽヿ無シ、法章付與スル所法官是レナリ、行政官ヨリ、之ヲ阻隔シテ、平允ノ裁ヲ奪フヿヲ得ズ、法官ノ法官ハ、即チ司

第九條

何等ノ刑モ、法章ニ由ルニ非レバ、之ヲ設ケ、及之ヲ科スルヿヲ得ズ、王命ヘ、刑ヲ設クルヿヲ得ズ、刑ヲ設クルヘ、必ス法章ニ由ヘ、

第十條

住居ハ、侵スベカラズトス、法章ニ掲ケタル時機ニ於テシ、及法章示ス所ノ規程ニ於テスルニ非レバ、住居ノ撿探ヲ行フヿヲ得ズ、治罪法ニ依ル家ニ進入シテ撿探スルヿナシ、ヲ除クノ外、人

第十一條

公益ノ故ニ由リ、及法章ニ定メタル時機ニ於テシ、及法章ニ定メタル方式ニ依リ、而シテ正當ナル事前賠償ヲ以テスルニ非レバ、何人モ其ノ私有ヲ褫ハル、ヿ無シ、公益奪ヒ私有法ヲ除クノ外、私有ノ權ヲ侵スヿナシ

第十二條

財産没入ノ律ヲ設クルヿヲ得ズ、

第十三條

准死律ヲ廢ス、再タヒ設クルヿヲ得ズ、准死ハ死ヨリ酷ナリ

第十四條

教門ノ自由、禮拜公行祝儀ヲ云、ノ自由及一切ノ方法ヲ用ヒテ、書画言論ヲ論ゼズ、志意ヲ著スノ自由ハ、保固トス、但シ其ノ自由ヲ行フニ因テ犯シタル罪過ノ懲罰ハ、例ニアラズ、誹謗ノ類、

第十五條

何人モ、教門ノ行事及禮拜ノ爲ニ、何等ノ方法ヲ

以テ之ヲ贊ケ行フヿ、及其ノ休日日曜日ノ類ヲ守ルヿニ、強逼サルヽヿ無シ、已ニ教門ノ自由ヲ許シ、又教門ヲ守ラザルノ自由ヲ許ス、○爰ニ於テハ、日曜日ヲ守ラザル者ハ、罰アリ、

第十六條

政府ハ、僧官ノ撰命及建立ニ干預スルノ權ヲ有セズ、又僧官ノ其ノ首長ト交際スルヿヲ禁シ、及其ノ文書ヲ公布スルヿヲ禁スルノ權ヲ有セズ、但シ文書公布ニ付テハ、著刻及公布ノ爲ノ普通ノ任責法ニ從フ、著刻律ノ通則ニ從フ、

民婚法ハ、民法婚約ハ、民籍官ニ詣リ、約ヲ成ス、必ス爰ニ毎ニ婚祝神ニ詣リ

婚ヲ約スルノ俗、ニ先スベシ、古昔、我門、婚配ノ相ヲ載ル、今之ヲ民籍官ニ歸スシ、臨時法章ニ由テ定ムル特免ハ、限ニアラズ、特免法ハ、犯人多キヿヲ慮ルニ起ル、

第十七條

教授ハ、自由タリ、一切ノ防制ハ、之ヲ禁ス、其ノ過失ノ懲罰ハ、法章ニ由ルニ非レハ、之ヲ定ムルヿ無シ、文部官ノ專ニスル所ニ非ラズ、

政府ノ給費ヲ以テ興フル普通學小學教ハ、均シク法章ニ由テ、之ヲ定ム、

第十八條

著刻ハ自由タリ、監査法ハ、設クルヿヲ得ズ、著述人公布人印刻人ヨリ、讓納金ヲ徵スルヿヲ得ズ、若著述人ノ名ヲ顯ハシ、及其ノ白耳時ニ住居シタル時ハ、公布人印刻人及發兌人ヲ糺治スルヿヲ得ズ、刑法ニ、著刻ノ、王及王族ヲ侵ス者、及外國ヲ侵ス者ハ、罪アリ、此ノ條、著述人ヲ坐シニ、公布人印刻人發兌人ヲ坐セザ、偽著述人知ルベカラズ、及外國ニ在ル者ハ、公布人以下ノ罪ヲ治ムルヿ、云

第十九條

凡ソ白耳時人ハ、兵器無ク、平穩ニ、集會スルノ權ヲ有シ、此ノ權ノ受用ヲ定ムル所ノ法章ニ循フ、

然レ𪜈官ニ乞テ前許スルヲ要セズ、

此ノ條規ハ、露場ニ會スル者全ク警察ノ法ニ從ヘベキ者ニ准用セズ、（露場トハ、街衢廣園、凡ソ衆屋ナキ者、皆是レナリ、）

第二十條

白耳時人ハ、會社ヲ結フヿノ權ヲ有ス、此ノ權ハ、何等ノ防制方法（警察ノ法ヲ云、）ニ從フヿナシ、

第二十一條

各人ハ、官ニ向テ、一名若クハ衆名ノ上言書ヲ進ムルノ權ヲ有ス、（衆名連署、仍ホ一名ニ同シ、連衆一名ト同カラズ、）

連衆一名ノ上言書ヲ進ムルノ權ヲ有スル者、（特ニ何官若クハ何院ト稱シテ、各人ノ名ヲ署セザルヲ云、）獨リ公立官ニ限ル、（各氏ハ、各名ヲ用フ、何社何會ト稱スルヿヲ得ズ、）

第二十二條

信書ノ秘密ハ、侵スベカラズ、

郵便信書ノ秘密ヲ破リタル者アレバ、（國域シタ其ノ吏人何ヲ如カ責ニ仕スベキヿ、法章之ヲ定ム、）

第二十三條

白耳時國ニ於テ通用スル諸種ノ言辭ヲ用フルハ各人ノ隨意トス、（特ニ官府ノ文書及裁判事件ノ爲ニハ、法章ニ由テ之ヲ定ムルコトヲ得、公文ハ必ス佛

語ヲ用フ、

第二十四條

官吏職務ノ事ニ付キ、私罪ヲ論ス、追糾ヲ行フ爲ニ、前許犯人未偽長官ノ前ニ許可ヲ要スルヿ無シ、司法裁職ノ專行ニ任ス、但シ諸執政ニ係ル、法章特定スル者ハ、例ニアラズ、

第三章　政權 政事之權

第二十五條

凡ラ政權ハ、國民ヨリ生ス、國民アリテ、政府アリ、皆國民ニ本ヅク、○是レ佛國建國法ニ依ル者ニ、佛國變革黨ノ說ニ本ヅク、昔魯西政學家ノ取

ラザル所ナリ○政權ヲ行フハ、建國法定ル所ノ模範ニ循フ

第二十六條

立法權ハ、國王及代議士院、下院及上院ニ由テ、共同シテ之ヲ行フ、國王ニ院ト立法權ヲ分有ス、

第二十七條

起議ノ權ハ、立法權ノ三技國王上院下院各之ヲ有ス、議案ヲ發スルノ權、○三技平均トス、○

然レドモ國計、及徵兵ニ係リタル諸法ハ、必ス最先ニ代議士院ノ公評ヲ取ルベシ、下院上院ノ上ニ居ル、

第二十八條

法章ノ申明、綏條ヲ申明ス、以テ定例ノ大權ヲ爲ス者ハ、一ヒ、申明ヲ經、獨リ立法權ニ屬ス、司法官ノ明後日ノ例拠タリ、テ既往ヲ裁メ、以テ未來ヲ例スベカラザルヲ云、法申律ハ以

第二十九條

行政權ハ、國王ニ屬スルヿ、它人干冒セズ、建國法ニ定ムル所ノ如シ、第六十條以下、

第三十條

司法權ハ、上下裁判所ニ由テ之ヲ行フ、政府干冒ヲ得ズ、

第三十一條

各邑各州ノ利益ハ、建國法ニ定メタル元則ニ從ヒ、第百八條以下邑會州會ニ由テ、之ヲ議定ス、

○第一部　両院

第三十二條

両院ノ議員ハ、全國民ノ總代タリ、獨リ議員ヲ撰出スルノ一州若クハ一區ノ代人タルニ止マラズ、旧法、議員ハ、一州一區ノ代人トシテ、必ス其ノ所出ノ地方人民ノ求望ヲ達スルニ任ス、今、之ヲ改ム、

第三十三條

両院ノ會ハ、公行トス、公聽ヲ許ス、

然レドモ、各院、其ノ議長、若クハ議員十人ノ求望ニ依リ、密會ヲ行フ、

繼テ全勝法ヲ用ヒ、其ノ事件ニ付キ、密會ヲ以テ議シタルノ事件、公會ヲ以テ、再議スルヲ要スル乎ヲ決ス、

第三十四條

各院、其ノ議員ノ權任ヲ監査ス、委任狀ヲ檢査スルヲ云、而シテ權任事件ニ付キ、起ル所ノ爭訟ヲ裁判ス、

第三十五條

一人、兼テ兩院ノ議員タルヿヲ得ズ、

第三十六條

兩院ノ議員、政府ノ俸給セル官職ヲ受ル時ハ、即チ議員ノ列ヲ失フ、而シテ更ニ新撰ニ由ルニ非レバ、其ノ位ヲ復スルヿ無シ、

第三十七條

毎會、各院、其ノ議長及副議長ヲ撰ヒ、而シテ事務室ヲ建設ス、議長一員、副議長二員、書記官四員、之ヲ事務室トス、

第三十八條

凡ソ議決ヲ舉ルハ、議票ノ全勝ヲ以テス、但シ撰舉及推薦事務室諸員及理事員ノ授爵、○推薦トハ、名ヲ進メテ決ヲ國王ニ取ルニ係リ、兩院ノ院則ニ由テ定ムベキ者ハ、例ニアラズ、

推撰ヲ得ル者、両人以上ニシテ、共ニ全勝ヲ得ザルトキハ、再議シテ、優勝ノ法ヲ用フ、

公評平分 両議平分シテ、一ニセザルヲ云、歸ノ時ニハ、其ノ議案ヲ斥ク、

各院、其ノ議員ノ過半衆、列會シタルニ非レバ、議決ヲ舉ルヿヲ得ズ、

第三十九條

公評ヲ發スルハ、高聲ヲ以テシ、或ハ起坐ヲ以テス、重キハ、高聲可否シ、軽キハ、或ハ起、或ハ坐シテ、以テ可否ヲ表ス、

法案ノ総議ニ付テハ、逐條議決スル者ニ非ズシテ、全案ヲ総議スル者ヲ云、

毎ニ呼名法ヲ用ヒ、名ヲ呼ヒ以テ各員ノ出頭ヲ照査ス、高聲公評ヲ以テス、○被撰人 議員以下ヲ云 ノ撰舉及推薦ハ、暗票ヲ用フ、無名ノ密票、

第四十條

各院、糾察ノ權ヲ有ス、諸大臣ノ犯事ハ、糾察シテ、罪ヲ論ズ、

第四十一條

法章ノ議案ハ、逐條公評シタルノ後ニ非レバ、両院共ニ之ヲ許可スルヿヲ得ズ、

第四十二條

両院ハ、逐條ヲ改竄シ、及條別シ、及已ニ草シタル改竄 它ノ一院ヨリ改竄シタル者、ヲ更ニ改竄條別スルノ權ヲ

有ス、

第四十三條

各民親ラ両院ニ向テ、上言書ヲ進ムルヿヲ禁ズ、

親身進獻スルヿヲ禁ズ、但タ書記局ニ付進ス、

各院ハ、受ル所ノ上言書ヲ諸執政ニ送付スルノ

權ヲ有ス、○諸執政ハ、該院ノ求メアルヿトニ、必

ズ其ノ上言書中載スル所ノ事件ノ上ニ、辨明ヲ

ナスベシ、執政答辨ノ務、

第四十四條

両院ノ各議員ハ、其ノ職ヲ行フニ付キ、發言シタ

ル意見ニ係テ、糾治檢索セラルヽヿナシ、議事自由ノ權

第四十五條

両院ノ各議員ハ、本院ノ許可ヲ經ズシテ、開會ノ

間、刑事ノ爲ニ、逮糾拿捕スルヿヲ得ズ、但シ現行

犯ハ、例ニアラズ、

同前許可ヲ經ルニ非レバ、開會ヲ間、両院議員ニ

向テ、要償ノ勾留民法償ヲ責メテ勾留スヲ行フヿヲ得ズ、

両院議員ノ勾留、及糾治ニ付キ、該院ノ請求アル

ヲ、開會ノ間、之ヲ置閣ス、開會ノ前、勾留糾治スル者ハ、開會ニ臨テ、之

ヲ置閣スルヲ云、現行犯ヲ以テ、捕ニ就ク者ヲ置閣スル亦タ同シ、

第四十六條

各院ハ、院則ニ由テ、各、其ノ權任ヲ施行スル方式ヲ定ム、

○第一類　代議士院

第四十七條

代議士院ハ、國民直チニ撰フ所ノ代人ヲ以テ成ル、獨乙國ノ如キハ、國民、撰舉人ヲ撰ビ、撰舉人、代議士ヲ撰フ、猶一間ヲ隔ツ、伯耳時ニ於テハ、國民即チ撰舉人タリ、故ニ直チニ撰フト云、

國民トハ、撰舉法定ムル所ノ直稅百「フロラン」以下、二十「フロラン」以上ノ歲額ヲ納ル、者ニ限ル、又傭醫代言ヲ業トスル者ハ、撰權ヲ得、○下院計百二十四人、

第四十八條

代議士ノ撰ハ、法章定ムル所ノ區分ニ依リ、地方ヲ撰舉ノ區ヲ為ス、及法章定ムル所ノ處ニ於テ、之ヲ行フ、區ノ首府ニ於テス、

第四十九條

撰舉法、民ロニ從テ、代人ノ數ヲ定ム、四萬人一負ノ比例ヲ越ルヿヲ得ズ、○撰舉法、又撰舉人タル適ノ約束、前人、貧人ハ、撰舉人タルヿヲ得ズ、及撰舉ノ方法ヲ定ム、此レ撰舉法ニ詳ナリ、故ニ建國法ニ舉ス、

第五十條

撰ニ當ルベキ為ニハ、

第一　生レテ白耳時人タルヿ、若クハ大歸化ノ許ヲ受クタルヿ、外國人ヲシテ大歸化ヲ行フヿタル者ハ、生レテ白耳時人タル者ニ同シ、

第二　私權及政權ヲ享有スルヿ、民權ヲ全有スルヿヲ云、

第三　滿周二十五歳ナルヿ、

第四　白耳時國ニ居住スルヿ、

ノ要ス

其ノ它、撰ニ當ル為ニ、一ノ約束ノ望ムヿヲ得ズ、

撰ニ當ル為ニハ、貧富ヲ論セズ、

第五十一條

代議士院ノ議員ハ、四年ヲ一期トス、○撰舉法ニ定メタル次序ニ從ヒ、毎二年議員ノ半ヲ更撰ス、

第五十二條

代議士院各員ハ、開會ノ間、一月、二百「フロラン」ノ償給ヲ受ク、○會ヲ開ク所ノ都府ニ住ム者、償給ヲ受ケズ、償給ハ獨リ旅費ニ供ス、

一○第二類　上院

第五十三條

上院ノ議員ハ、各州ノ民口ニ比例シ、代議士院員

ヲ撰ヲ所ノ國民、別ニ約束アルニ非ズ、之ヲ撰ノ、

第五十四條

上院議員ハ、下院ノ數ノ半ニ居ル、計六十二人

第五十五條

上院議員ハ、八年一期トス、撰擧法ニ定タタル次序ニ從ヒ、毎四年、其ノ半ヲ更撰ス、

解散ノ時ニハ、全員ノ解散ス、全員ヲ更撰ス

第五十六條

上院議員ノ撰ニ當ル爲ニ、

第一　生テ白耳時人タルヿ、或ハ大歸化ノ許

ヲ受タタルヿ、

第二　政權及私權ヲ享有スルヿ、

第三　白耳時國ニ住ムヿ、

第四　歳四十以上ナルヿ、

第五　白耳時國ニ於テ、直税千「フロラン」以上ヲ納ルヽヿ、（直接税、ポ其ノ中ニ在リ、）

ヲ要ス、

但シ直税千「フロラン」ヲ納ルヽ所ノ民、人口六千ニシテ一負ヲ擧ルノ比例ニ考ルニ足ラザル州ニ於テハ、降テ其ノ下ニ取ル、

第五十七條

上院議員ハ、俸給及賞給ヲ受ルヿナシ、

第五十八條

太子十八歲ニ至ル時ハ、上院議員タルヿノ權ヲ有ス、○太子ハ、二十五歲ニ至ラザレバ、公評ノ權ヲ有セズ、

第五十九條

代議士院閉會ノ時ニ非ズシテ、集會スルノ上院ハ、固ヨリ其ノ效ナシ、會ノ開カルヽハ、同シ、

第二章　國王及諸執政

○第一部　國王

第六十條

國王ノ定權ハ、「ヒマポル、ジョルジー、キレチアン、フレデリク、ド、サクス、コブール、グ」陛下ノ直統子孫タル直統トス　本生私生ヲ論セズ、大宗ノ序ニ依リ、長ヲ以テ宗トス　男々相傳ス、而シテ女子及女子ノ子孫ハ、永久位ヲ踐ムヿヲ得ズ、

第六十一條

「ヒマポル、ジョルジー、キレチアン、フレデリク、ド、サクス、コブール、グ」陛下ノ男子無キ時ハ、陛下ヨ

リ両院ノ承認ヲ得テ、其ノ世嗣ヲ冊立スルヿヲ得、両院ノ承認ハ、次條ニ掲ケタル、方式ニ依テ議決シタル者ナリ、三分二以下全勝ノ方式、

若、上ノ式ニ從テ爲シタル冊立ナキ時ハ空位タルベシ空位ノ外ハ、両院ヲ新徹タシ、両院合議シ且ニ就キ處分ス、學八十五條ニ見ユ、

第六十二條

國王ハ、両院ノ承認無クシテ、兼テ他國ノ首領タルヿヲ得ズ、

此ノ事ニ付テ、各院ハ少クモ其ノ議員ノ三分ノ二出頭セザル時ハ、評議スルヿヲ得ズ、而シテ已

ニ評議シタル時ハ、少クモ投票三分ノ二ヲ合シタルニ非レバ、決ヲ舉クルヿヲ得ズ、

第六十三條

國王ノ身ハ侵スベカラザル者トス、國王ノ諸執政ハ責ニ任スベキ者トス、

第六十四條

國王ヨリ出ル文書ハ、一ノ執政之ニ副署シタルニ非レバ、施行ノ力ヲ有スルヿヲ得ズ、執政ハ、唯副署シタルニ因テ、其ノ責ニ任ス、副署ナキノ文書ハ、執政其ノ責ニ任ズ、王命タルノ効力ナシ、

第六十五條

國王ハ、諸執政ヲ命シ、及之ヲ免ス、

第六十六條

國王ハ、軍士ニ等位ヲ賜ス

國王ハ、一切ノ政部官、及外交諸官ヲ命ス、但シ法章定ムル所ノ特例ハ、限ニアラズ、民選ふん者、其它ノ諸官ハ、法章ノ明文ニ據ルニ非レハ、國王ヨリ命セズ、司法官ノ類、

第六十七條

國王ハ、法章ノ施行ノ爲ニ、要用ナル條例、及命令

ノ作ル條例トハ、法章ノ細目ヲ爲ス者、命令トハ、法章ノ施行ニ付キ、指令スル者、ト云モ、法章ノ施行ノ置指シ、及曲免スルヲ得ズ、曲免トハ、一人一案ニ私ス、

第六十八條

國王ハ、陸海軍ヲ指揮シ、戰ヲ宣告シ、和平、及連合、及貿易ノ條約ヲ爲ス、○國益、及國安、之ヲ要スル和平ノ戰ヲ要ス、ニ當テハ、國王直チニ、之ヲ兩院ニ照報シ、及通告文案ヲ附ス

貿易ノ條約、及國財ヲ費スベキノ條約、現ノ今ニ費ルモ、後日或ハ之ヲ要セザルモ、後日或ハ之ヲ要スルニ至ル者アリ、故ニベキト云、若クハ各民ニ關係

スベキノ條約ハ、両院ノ承認ヲ得タル後ニ非レバ、其ノ力ヲ有セズ

土地ヲ譲ルヿ、及易ルヿ、及附加スルヿハ、法章ニ依ルニ非レハ、之ヲ行フヿヲ得ズ、國王ハ、上地ヲ專ルノ權ナシ、

何等ノ時ニ於テモ、條約ノ密款ハ、本款ト相害スルヿヲ得ズ、(條約ニ或ハ密款アルヿヲ得、但シ本款ト相抵害スルニ至ルトハ、人民ノ耳目ヲ塗塞スルニ近シ、)

第六十九條

國王ハ、法章ヲ制可シ、及公布ス、(制可セザレハ、法章ヲ成サズ、故ニ國王ハ立法權ノ一ニ居ル、公布、式ニ依ラザレハ、施行ノ力ヲ有セズ、)

第七十條

丙院ハ毎年十一月第二ノ火曜日ニ會ヲ開クノ權ヲ固有ス、(王命ナシト云ヒ、例ニ依リ會ヲ開クベシ、故ニ固有スト云、但シ其ノ前ニ、國王ヨリ徵聚シタル時ヲ論セズ)

丙院ハ、毎年、必ズ四十日間以上、會ニ在ルベシ、

國王、閉會ヲ宣告ス、(會ノ終期、)

第七十一條

國王ハ、丙院ヲ同時ニ、或ハ各別ニ、解散スルノ權ヲ有ス、(紛議事ヲ沮ム時ハ、之ヲ解散シテ、更ニ新議ヲ取ル、)

○解散ノ文書

ニハ、四十日間ニ、解散ノ日ヨリ、四十日ノ後、撰挙人ヲ徴聚スル丁、二月間ニ、議員ヲ徴聚スルヿヲ載ス、舊員ヲ解散スルノ後、速ニ新員ヲ徴聚スルヲ要ス、

第七十二條

國王ハ、兩院ヲ延留スルヿヲ得、○然レ氏兩院ノ承認ナクシテ、延留一月ノ期ヲ越エ、及一會ニ兩次ノ延留ヲナサシムルヿヲ得ズ、

第七十三條

國王ハ、裁判官ノ判決シタル刑罪ヲ寛赦シ、及降減スルノ權ヲ有ス、但シ諸執政ニ付キ、法章ニ定メタル者ハ、例ニ非ズ諸執政公事ノ罪ハ、國王赦減スルヿヲ得ズ

第七十四條

國王ハ、法章ニ循ヒ、錢貨ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス

第七十五條

國王ハ貴族ノ號章ヲ賜フノ權ヲ有ス、但シ附スルニ、特權ヲ以テスルヿ無シ、

第七十六條

國王ハ、武爵ヲ賜ス、但シ此ノ事ニ付キ、法章示スル所ノ條規ヲ守ル

第七十七條

法章各王ノ宮費ヲ定ム、千八百六十五年ノ法ニ、歳額六十万圓トス、

第七十八條

國王ハ、建國法、及建國法ニ由リ特ニ掲ケタル法章ニ、明カニ歸附スル所ノ者ヲ、除クノ外、它ノ權勢ヲ有セズ、王權ハ法ノ明文ニ拠ル、

第七十九條

國王歿スル時ハ、兩院ハ、遲クモ其ノ後十日間ニ、徵聚ヲ待タズ、會合ス、○若シ兩院其ノ前ニ解散セラレ、而シテ解散ノ令ニ載セタル新徵ノ期却テ第十日ヨリ後ニ在ル時ハ、新議員ノ交代スル

ニ至ル迄、舊議員其ノ職ヲ行フ、

若、解散シタル者、一院ニ止マル時ハ、該院亦上ノ規則ニ依ル、它ノ一院ハ、常例ニ依ル、

國王歿スルノ日ヨリ始メ、嗣王、若クハ攝政ノ宣誓即チ即位ノ式ニ至ル迄、諸執政合シテ一會ヲ成シ、其ノ任責ニ當リ、伯耳時國民ノ名ヲ以テ、國民ニ代リ、國王ノ定權ヲ行フ、空位ノ間、大臣政ヲ行フ、

第八十條

國王ハ、全周十八歳ヲ以テ成年トス、

國王ハ、兩院合會ノ中ニ於テ、式ニ依リ、左ノ誓辭

ヲ宣ヘタル後ニ非レバ、位ヲ有セズ、

我白耳時國民ノ建國法及諸法章ヲ守ル事、及國ノ獨立地ノ全局ヲ保ツ事ヲ誓フ、

第八十一條

若國王歿シタル時ニ、嗣王未成年ニ係ル時ハ、攝政及太保ヲ定ムル爲ニ、両院合シテ一會ヲ成ス、

攝政ハ、國ノ政ヲ掌スル者、太保ハ、王ノ身ヲ保スル者、

第八十二條

若國王、政ヲ親ラスルヿ能ハザルノ狀ニ在ル時ハ、諸執政共不能ノ情狀ヲ証驗セシメタル後ニ、醫士ヲシテ位牌セシム、速カニ両院ヲ徵發ス、○両院合會シテ、太保及攝政ヲ定ム、

第八十二條

攝政ハ、必ス一人ニ仕ス、衆臣共和シテ、政ヲ授ス、占ヘ或ハ之ヲ、○

攝政人ハ、第八十條ニ示シタル誓辭ヲ宣ヘタル後ニ非レハ、職ニ即カズ、

第八十四條

攝政ハ、建國法ノ中、一ノ改正ヲ行フヿヲ得ズ、

第八十五條

空位ノ時ニ當テハ、両院合議シテ、全ク新徵シ

ル両院ノ會合ニ至ル迄、假ニ攝政ヲ定ハ、○新徴ノ會合ハ、遅クモ二月内ニ於テス、○新徴ノ議員ハ、両院合議シテ、定ノテ假ニアラズ、空位ノ處分タナス、新王ヲ推立シ、若クハ共和ヲ公布ス、

○第二部　諸執政（司法外務工部兵務會計九六省又大臣ト云アリ、）

第八十六條

生テ白耳時人タル者、若クハ大歸化ヲ得タル者ニ非レバ、執政タルヿヲ得ズ、

第八十七條

王族ハ、執政タルヿヲ得ズ、

第八十八條

諸執政ハ、其ノ議員タル時ニ非レバ、両院ニ於テ、公評ノ權ヲ有セズ、（議員ヲ兼ルノ執政ハ、公評ノ權ヲ有ス、）

諸執政ハ、各院ニ參入ノ權ヲ有ス、諸執政ヨリ要求スル時ハ、議院必ス其ノ陳議ヲ聽クベシ、

両院ハ、諸執政ノ出頭ヲ求ムルヿヲ得、

第八十九條

何等ノ時ニ於テモ、國王言辭、若クハ文書ノ命令ヲ以テ、諸執政ノ責ヲ解クヿヲ得ズ、（議院ノ論告ニ任ズ、）

第九十條

代議士院ハ、諸執政ヲ論告シテ、之ヲ大審院ニ提喚スルノ權ヲ有ス、大審院ハ、全員合會シテ、大審院分ヲ數局トス、今、數局ノ全員ヲ合會ス、之ヲ裁判スルノ權ヲ專有ス、大民ヲ審判スルハ、但シ被害人ヨリ要償ノ私訴ノ專ラ大審院ニ限ル、罪犯ノ為ニ損害ヲ受ケタル者、民法ノ訟ヲ以テ、賠償ヲ要求スルヲ云、及執政ノ職務ノ外ニ犯シタル重輕罪私罪ハ、平民ニ同シ、ニ係リ法章ニ定ムベキ可キトハ、未然ノ待、其ノ法、未ク識定セズ、故ニ可シト云、者ハ、此ノ例ニアラズ、職務罪ハ、國事ニ關カル、殊ニ重大ノ決ス、職務罪トハ、職務ニ付キ犯ス所、地權、職賄及諸違建國法律、是レナリ、我カ律ノ所謂公罪ト同カラズ、

第三章　司法權

第九十二條

凡、民權ニ係リタルノ争訟ハ、專、諸法衙ノ管理ニ屬ス、下條代議士ヲ投撰スルノ争ハ、地方議會之ヲ決スルノ類、之ヲ政權ノ訟トヲ本條之ニ對ノ云、

第九十三條

凡ソ政權ニ係リタルノ争訟ハ、法章ニ由テ定メタル特例ヲ除クノ外、諸法衙ノ管理ニ屬ス、

第九十四條

一ノ法衙モ、一ノ裁判權モ、法章ニ據ルニ非レハ、設立スルヿヲ得ズ、○何等ノ名義タリトモ、非常審

吏非常法衙ヲ設クルヿヲ得ズ、司法ノ權ヲ奪ヒ以テ私ヲ濟スカ為メナリ、

第九十五條

白耳時全國ノ爲ニ、一ノ大審院ヲ置リ、○大審院ハ、事件ノ案據ヲ受理セズ、唯聽斷、規程ニ違フ者トヲ受理シ、以テ法衙法官ノ矢錯ヲ監正ス、但シ諸執政ノ裁判ハ、例ニアラズ諸執政ノ職務罪ハ、大審院其ノ事案ヲ推理ス、

第九十六條

諸法衙ノ訟廷ハ、公行トス、敵人公議ノ許ス、但シ其ノ世治、若クハ内行ノ爲ニ害アルベキ者ハ、例ニアラズ、國事犯、凶徒聚衆ノ類ハ、訟廷ノ公行、以テ世治ヲ破ラシヿヲ恐レ、男女ノ訟ハ、以テ其人ノ体面ヲ破ラシヿヲ恐ル、而シテ其ノ時ニハ、裁判ニ由テ裁判宣告ノ式ヲ用フ、法衙ヨリ、公行ヲ停ムルヿヲ宣告ス、

國事犯、及著刻犯著刻犯大逆國事ニ係ル、ニ係テハ、陪審ノ合員同意十二人同意ナルヲ云ニ非レバ、閉戸ヲ宣告スルヿヲ得ズ、閉戸ハ、公行ヲ停ムルノ謂、

第九十七條

凡ソ裁判ハ、理由ヲ附ス、此ノ如キ事理ニ由テ、此リ、裁判宣告ノ文ハ、必ス其ノ理由ヲ揭ク、

第九十八條

凡ソ重罪、及國事犯、著刻犯ニハ、陪審ヲ設ク、國事犯著

刻犯ハ、輕罪ト云フ、赤陰卷ヲ置ク、

第九十九條

保安法官及諸裁判所始審裁判所ヲ云、ノ法官ハ、國王直チニ之ヲ任ス、

控訴院ノ評事官、即チ法官及始審裁判所ノ長官、及副長官ハ、上院曁ヒ大審院ヨリ、各進ムル所ノ二ツノ薦名表ニ依リ、數人ノ名ヲ薦メ、國王ノ撰ヲ取ル、之ヲ薦名表トス、○一ハ、評事官ノ為ニシ、一ハ裁判所長官ノ為ニス、故ニ二ツノ薦名表トス、國王之ヲ任ス、

此ノ二ツノ時ニ於テ、控訴院ノ評事官ト、始審裁判長官ヲ撰フノ時、一ノ名表ニ載セタル撰士、又它ノ名表ニ載スルヿヲ

得

凡ソ薦名ハ、宣任ヨリ少ク尺十五日前ニ公布ス、

法院大審院控訴院ヲ云、ハ、法官中ヨリ、其ノ長官、及副長官ヲ撰フ、自ラ其ノ長ヲ推撰ス、

第百條

法官ハ、終身ヲ以テ任ス、

法官ハ、審判ニ由ルニ非レバ、罪アリテ、公然ト審判ヲ受ケタルヲ云、職ヲ免シ、及職ヲ停ムルヿ無シ、職ヲ存シテ、務ヲ行ハズ、之ヲ停職スト、

新任人員アリテ、新員アルヲ以テ、適上轉所ス、而シテ本人許諾

スルニ非レバ、新賞アリト云ヒ、本人願ハザレバ、亦轉所セズ、法官ノ轉所アルヿヲ得ズ、

第百一條

國王ハ、法院（大審院 控訴院）及裁判所（始審裁ノ目代官ヲ任シ、及之ヲ免ス、法官ハ、之ヲ命シタ而ノ之ヲ免スルヿヲ得ズ、檢官ハ之ヲ命シ、又之ヲ免ス、）

第百二條

司法官ノ俸給ハ、法章之ヲ定ム、

第百三條

法官ハ、政府ヨリ俸給アルノ職ヲ兼ネ受クルヿヲ得ズ、但 法章二官相兼ネザルノ例ヲ特定スル者ヲ除クノ外ハ、俸給ヲ受ケズシテ、職ヲ兼ヌルヿヲ得、（法官兼ヌル職負クルヿヲ得ザル類、二官相兼ネザルノ定例トス、）

第百四條

白耳時全國ニ三ヲノ控訴院ヲ置ク、○法章其ノ管理ノ區分、及建置ノ地ヲ定ム、（其ノ下、下等裁判所ニ十六ヲ置ク）

第百五條

別法、軍法司ノ構制、及權任、軍法官ノ權務、及任期ヲ定ム、

法章ニ定メタル各地方ニ於テ、商事裁判所ヲ置

ク、○法章、商事裁判所ノ構制、及ヒ權任、及裁判官任命ノ方式、及其ノ任期ヲ定ム、

第百六條

大審院ハ、法章ニ定メタル方式ニ從テ、權限ノ爭ヲ決ス、各裁判所權限ノ爭フ云、

第百七條

各法院、各裁判所ハ、諸執政ノ指令、及普通ノ條例、各州ノ條例、各邑ノ條例ニ於テ、並ニ議院ノ議決ノ經ズシテ、諸執政、若クハ地方官ノ手ニ出ル者、其ノ法章ニ合スル者ニアラザレバ、處行セズ、法官ハ、法章ヲ處行スル者ニシテ、行政官吏ノ指令ヲ處行スル者ニ

アラズ、

○第四部　州邑之制

第百八條

州及邑ノ制度ハ、法章之ヲ定ム、白耳時ノ法、州ノ下ニ區アリ、區ノ下ニ邑アリ、邑ハ佛國ノ制ニ同シ、州ニ州會アリ、州委員六員、州知事一員、大書記一員、州會ハ、州民ノ選フ所ニシテ、其ノ權任ハ、曰、控訴院ノ評事、官裁判所ノ長官、副長官ノ應撰人名ヲ奏ム、曰、州屬吏負ヲ撰任ス、曰、州事ノ爭ヲ決ス、曰、毎年、前年ノ出納ヲ統計シ、來年ノ歳額ヲ投評ス、曰、州屬吏負ノ俸給、及養料ノ定ム、曰、州債、及州産ノ賣買變易ノ許否ス、曰、道路、河渠ノ築造ヲ決ス、曰、各邑ニ直稅ノ減免ノ願ヲ決ス、曰、一州内治ノ條例、及警察條例ヲ作ル、以上數件ニ就テハ、其内ノ公館建造、及州産賣易、及道路、河渠ノ築造ハ、特ニ國王ノ認可ヲ要ス、州行事ハ、州會自ラ其ノ中ノ六

員ヲ擢ヒ、一任四年、毎二年、其ノ三員ヲ更撰ス、俸給アリ、州委員ノ首長ヲ州知事トス、州委員ノ権任ハ、曰、一州ノ内治諸件ニ付キ、及州知事ノ求メニ付キ意見ヲ要スル者ニ付キ、及法章ノ施行其評議ス、曰、訟事ニ付キ、一州ノ裁代タリ、曰、州会ノ会時ニ係ル者ハ、権ニ於テ之ヲ決議ス、但シ事件ハ、事重キヲ以テ例ニアラズ、州知事ハ政府ノ名代人ト、議案及州会若シ州委員ノ決ス事件ノ施行ヲ掌リ、三十日間議決ノ施行ヲ格メテ行ハ、ダ〇州内ノ平治保持シ、法ニ循フ警ル、一ヲ待ツ、〇毎区ノ使一員ヲ州知事及州委員ノ兵氏兵ニ用ヒ、村邑（人口五十以上ノ府市）ノ管治ヲ監シ、各邑庫ヲ検シ、諸公舘ヲ登スク、〇毎邑ノ邑会ハ、議員ノ数人、邑長及邑長補助官ノ撰ヲ所ニシテ、国王ノ許可ヲ待ツ、或ハ単ニ州委員ノ承諾ヲ求ル、又国王ノ許諾ヲ取ル、又邑長ト補助官ノ費ヨリ俸給スル所ノ官吏ノ命ス、邑長ト補助官ノ数員ハ、一邑ノ行政権ニシテ注章及條例ノ執行ヲ監シ、氏籍ノ保管シ、邑内ノ警察ノ主ヲ、邑庫ヲ検シ、文書ヲ蔵貯ス、若シ擾乱アハ、邑長ヨリ、民兵若クハ鎮兵ヲ請求スルヲ得（原註）

官二人若クハ四人ヲ置ク、邑長、邑議員、補助官、共ニ六年一任ニシテ、邑長及補助官ハ、其ノ怠慢不正アル者ハ、州委員ノ詳明ナル意見ニ依リ、州知事之ヲ免シ、若クハ職ヲ停ムルヲ得、邑会ノ権ヲ議定シ、邑長路視ノ下ニ評決ハ、凡ノ邑内利益ヲ議定シ、邑長路視ノ下ニ評決ス、其ノ大事ハ州委員ノ承諾ヲ求リ、又国王ノ許諾ヲ取ル、又邑

此法章、左ノ大則ノ處行ヲ確定ス、

第一、直撰、民撰法ニ、直撰アリ、直撰トハ、人民ヨリ撰挙人ヲ撰ヒ、撰挙人ヲ代議士ヲ撰ム、〇但シ地方ノ諸長官及州会ニ於ル政府ノ目代（即チ州知事）ニ係リ、法章定ノ得ル所ノ特例ノ除

ク、直接ノ用トズシテ重撰ヲ用フ

第二、凡ソ州邑ノ利益諸事ハ、州會及邑會ノ權任ニ屬ス、○但シ特例諸件ハ、法ノ定ムル所ノ規式ニ從ヒ、國王ノ許可ヲ要ス、

第三、州會邑會ノ會議ノ公行、○但シ法章、其ノ限ヲ定ム、

第四、豫計（來歲ノ定額）、統計（前年ノ出入）、ノ公布（衆人ヲシテ評議セシム）、

第五、州會邑會共ノ權限ヲ越エ、若クハ公利ノ破ラサル爲ニ、（一州一邑ノ利益ノ爲ニ、全國ノ公利ヲ破ラズ、）國王及立法權（大議院）ノ鈐轄（本ノ全國ニ交渉シ、又大改ニ關スル者ハ、州邑專斷スルヲ得ズ、國王及大議院ノ議ヲ經、州邑ノ舉、大改及公利ニ妨ク者ハ、之ヲ制止スルヲ得、）

第百九條

氏籍（生死婚ノ夫遇）ノ記錄及其ノ編冊ノ保藏ハ、專ラ邑官ノ權任トス、（僧門干預セズ、）

第四章　會計

第百十條

國稅ハ、法章ニ由ルニ非レバ、定ムルヲ得ズ、（必ス議院ノ議ヲ經ルヲ云、）

州稅ハ、州會ノ承諾ニ非レバ、定ムルヲ得ズ、

法章、州稅邑稅ニ係テ、其ノ經驗ニ據リ已ムヲ

得ザル者ノ特例數條ヲ定ムベシ、必要シ得ザル者、

第百十一條

國稅ハ、毎年公議ス、議院ニ於ヲ議決ス、

國稅ヲ定ムルノ法章ハ、其ノ力ヲ有スルヿ、一年ニ限ル、一議數年ニ渉ルヿヲ得ズ、但シ一案再用スル者ハ、例ニアラズ、前年ノ法章、更ニ新議ヲ經ヘノ後年ニ適用スルヿヲ云、

第百十二條

租稅ニ係テ、特免アルヿヲ得ズ、○租稅ノ免除、及減分ハ、法章ニ由ルニ非レバ、設クルヿヲ得ス、特免

ハ、中古貴族稅ノ類ヲ、免除減分ハ、老疾孤貧ニ施スノ類、

第百十三條

法章明カニ定メタル特例ヲ除クノ外、國州邑ノ正稅ニ非ズシテ、國民ヨリ一ノ課賦ヲ責ムルヿヲ得ズ、○現ニ行ハレタル防海堤稅河渠稅、普通法章ニ從フ者ヲ除クノ外、更ニ新法ヲ加フルヿヲ得ズ、

第百十四條

國庫ヨリ支出スベキ養料、老疾官員養料家眷養料ノ類、賞賜ハ法章ニ據ルニ非レバ、給與スルヿヲ得ズ、

第百十五條

毎年、両院ハ、統計（前年ノ出入、）ノ法章ヲ決シ、（検査ノ後、統計ノ法章成ヘ、）及豫計（来歳ノ出入、）ノ評定ス、○政府一切ノ出納ハ、必ス豫計表及統計表ニ載スベシ、（出納ノ公布、）

第百十六條

統計院ノ官員ハ、代議士院之ヲ撰任シ、法章定ムル所ノ任期ヲ以テ代任ス、（一任六年、）

統計院ハ、政部全局ノ出納及國庫ヨリ支出スル一切ノ會計ヲ檢査清算スルニ任ス、○豫計表ノ支費ニ於テ一項ノ過費アルヽナク、（費費、定額ヲ越ヘズ、）又

一ノ那移アルヽ無キヽヲ監ス、○政府各部ノ統計ヲ決シ、就テ一切ノ憑据、一切ノ文票ヲ拾聚スルニ任ス、○國計全表ハ、（毎年統計ヲ公布スルノ書、）統計院注明ヲ加ヘ、両院ニ付シ、議ヲ取ル、

統計院ノ搆制ハ、法章之ヲ定ム、

第百十七條

僧官ノ俸給養料ハ、政府ヨリ支出シ、其ノ定額ハ、毎年豫計表ニ載ス、（僧門私產ノ弊ヲ除ク、）

第五章　公力（兵ヲ名ケテ公力トスル者ハ、國民ヨリ出ル兵力ノ義ナリ、）

第百十八條

徴兵ノ規程ハ、法章之ヲ定ム、○法章、又軍士ノ隊進法、及權義ヲ定ム、

第百十九條

軍兵ノ點徴ハ、毎年評決ス、○點徴ヲ定ムルノ法章ハ、其ノ力ヲ有スル丁、一年ニ限ル、但シ一案再用スル者ハ、例ニアラズ、

第百二十條

備警兵ハ、搆制權任ハ、法章ニ屬ス、法章其ノ搆成定ムルヲ云、○白耳時備警兵歩千五百六十二人、騎千百十四人、

第百二十一條

外國ノ軍隊ハ、法章ニ由ルニ非レバ、白耳時ノ事役ニ從フヿヲ得ズ、カヲ外國ニ假ルヿヲ得ズ、白耳時ノ地土ヲ侵佔シ、及經過スルヿヲ得ズ、臨時外國兵ノ内地ヲ借リ、及經過スルヲ許スニハ、必ス公議ヲ經、

第百二十二條

民兵ヲ設ク、鄉兵ナリ、其ノ搆制ハ、法章之ヲ定ム、○會計軍吏ヲ除クノ外、凡ソ軍官甲比丹ニ至ルマテ、皆兵員之レヲ任ス、國兵ト同カラス、

第百二十三條

法章ニ据ルニ非レバ、民兵ヲ運轉スルヿヲ得ズ、民兵ハ、各地警備ノ為ニ設ク、故ニ各地ニ土着ス、它所ニ轉往シテ、戰守ノ用ニ供スルヿヲ得ズ、但シ時機ニ隨ヒ、議院議定スル所ハ、轉往スルヿヲ得、

第百二十四條

法章ニ定メタル處分ニ由ルニ非レバ、軍士其ノ官等榮章養料（榮章ハ、記念牌ノ類）ヲ奪ハルヽヿナシ、

第六章　通則

第百二十五條

白耳時國民ハ、紅黃赤ノ三色旗ヲ用フ、而ノ軍旗ハ、合爲強ノ三字ヲ銘シタル獅子ヲ用フ、

第百二十六條

比利悉府（ブリュセル）ハ、白耳時ノ都ニシテ、政府ノ在ル所トス、

第百二十七條

法章ニ据ルニ非ズシテ、誓ヲ命スルヿヲ得ズ、（神誓）重スルナリ、○法章、誓式ヲ定ム、

第百二十八條

白耳時ノ國土ニ在ル所ノ凡テノ外國人ハ、通ク身体及財産ニ向テ與フベキ保護ヲ受ク、（內國人ト異ナルヿナシ、但シ法章定ムル所ノ特例數條ヲ除ク、外國人ト異）

犯罪逃ノ約、及危害ナル外國人ヲ放逐スルノ法ノ類、

第百二十九條

凡ソ法章、及王命、及普通條例、普通條例ハ、改府ニ出テ、全國ニ通行スル者、及州邑ノ條例ハ、州會邑會ヨリ發スル各地ノ條例、並ニ法章定メタル規式ニ從ヒ、公布シタルノ後ニ非レバ、必行ノ義務タラズ、

第百三十條

建國法ハ、其ノ全部局部ヲ論セズ、之ヲ置格スルヿヲ得ズ、置格ノ施行ヲ停ムルヿヲ得ズ

第七章　建國法脩正

第百三十一條

立法權ハ、建國法中某條ノ脩正ヲ要スルヿヲ宣告スルノ權ヲ有ス、國王及上下院ヲ立法權トス、

此ノ宣告ノ後、兩院卽チ解散ス、令アルヲ待タズ、

第七十一條ニ稽ヒ、兩院ノ新員ヲ徵聚スベシ、新徵ノ兩院ハ、國王ト通同シテ、脩正ノ條件ヲ議ス、

此ノ時ニ、各院若少クモ其ノ議員三分ノ二出頭セザル時ハ、議事スルヿヲ得ズ、而シテ少クモ投票三分ノ二ヲ合セザル時ハ、變改ヲ許スヿヲ得

ズ、之ヲ慎重ス、故ニ議事特例ヲ用フ、

第八章　假則

第百三十二條

國王第一次推撰ノ爲ニハ、第八十條ノ第一項國王十八歳ヲ以テ成年トスルノ項、ニ依ルニ及ハズ、是レ「子ムール」撰スルカ爲ニ、特ニ設ケタルナリ、「チュタ」ヲ推

第百三十三條

千八百十四年一月一日ヨリ前ニ、白耳時ニ來リ、住居ヲ定ムル者ハ、生レテ白耳時人タル者ト同ク視ル、然ルニ其ノ人、本條ノ恩ヲ被ムルベキノ

情願ヲ宣告スルヲ待ツ、

此ノ宣告ハ、丁年人ノ爲ニハ、本建國法人民必行ノ義務タル日ヨリ數ヘ、必ス六月内ニ之ヲ爲スベシ、而シテ未丁人ノ爲ニハ、必ス其ノ丁年ニ至リタル一歳ノ内ニ、之ヲ爲スベシ、

此ノ宣告ハ、本人住居ノ地ノ本屬州官ニ向テ、之ヲ爲スヘシ、○宣告ハ、己レ自ラ之ヲ爲シ、若クハ公正ナル委任專狀ヲ有スル代理人、之ヲ爲スベシ、公正トハ、公証人ノ証記シタル者、專トハ、它ノ事件ト附帶セズ、

第百三十四條

法章ニ由テ掲定スルニ至ル迄、代議士院ハ、執政ヲ論告スル爲ニ、及大審院ハ、其ノ罪ヲ斷シ刑ヲ科シ、之ヲ判決スル爲ニ、並ニ專行之權ヲ有スベシ、專行之權トハ、其ノ所見ニ從ヒ、專獨處行シ、它ノ檢束ヲ受ケザルヲ云、此ノ條、後日一法ヲ設クルヲ待ツ、佛ノ法ニ倣ヒ、大臣犯罪ノ爲ニ特法院ヲ置キ、特陪審ヲ設ケントスルヲ云、

然レモ刑法特ニ掲ケタル事件ニ非レバ、罪ヲ科スルニ、禁役ヲ越ユルヿヲ得ズ、禁役ヲ越ユル以上ハ、蓋シ特陪審ヲ設ケシカ爲ナリ、

第百三十五條

諸法院大審院控訴院ノ官吏ハ、法章ニ由テ掲定スル、ニ

至ル迄、現在スル所ニ依ル、

此ノ法章ハ、必ズ議院第一會ノ間ニ議定ズベシ、千八百三十二年八月即チ建國法公布ノ明年ニ於テ議定ス、

第百三十六條

上條ト同時ノ議會ニ於テ、又一法ヲ議シ、大審院員初次ノ撰任ノ規程ヲ定ムベシ、大審院創始ニ係ル、故ニ初次ノ撰任ヲ要ス、

第百三十七條

千八百十五年八月二十四日ノ根本法ヲ廢シ、并ニ州法邑法ヲ廢ス、○然レモ州官邑官ハ、法章別

ニ定ル所アルニ至ル迄、其ノ權任、舊ニ依ル、

第百三十八條

建國法施行ノ日ヨリ始メ、建國法ニ反シタル一切ノ法章、王命、指令、條例、及其ノ它ノ文書ハ、之ヲ廢ス、

補則

第百三十九條

國會ハ、左ノ事件ニ付キ、所及急迫ノ期シ、各別ノ法章ニ由テ揭定スルヿノ要用ナルヿヲ宣布ス、

第一　著刻（著刻ノ規則）

第二　陪審ノ構制

第三　會計

第四　州邑ノ構制

第五　諸執政及它ノ政部官ノ任責

第六　司法ノ構制

第七　俸給表ノ修正
第八　兼任（一人數官ノ無位ヲ）ノ弊ヲ避ル爲ニ適當ノ法方
第九　破産及緩催法ノ修正
第十　軍兵ノ構制○陞進及老退ノ權利○軍律
第十一　諸定法書ノ脩正

土國建國法第二終

書白耳時建國法後

白耳時ハ、實ニ歐州各邦ノ中、最モ新ナルノ國タリ、蓋シ國小ナル者ハ、善ヲ爲スヿ易シ、而シテ興ルヿ新ナル者ハ、集ヘテ大ニ成ス、是レ白耳時ノ建國法、論者獨リ其盡善盡美ヲ推ス所以ナリ、地入州ニ過キズ、口五百萬ニ止マル、而シテ政治ノ醇ニシテ、雜フルニ教門ヲ以テセズ、自由ノ盛ニシテ、加フルニ覇術ヲ以テセズ、其

大國ニ介マリ、仍獨立ヲ全スル、蓋シ偶然ニアラズ、國旗ノ銘ニ曰、合爲強ト、至レル哉、言ヤ、若夫、兵力已ニ自ラ衛ルニ足ラズ、法治以テ自ラ立ツ能ハズ、而シテ又分崩離析シ、共同事ヲ濟スヿ能ハズ、是其ノ波蘭土タラザル者、幾ント希ナリ、

明治八年二月

御用御書物師

東京　日本橋元四日市

林　半兵衛